

# 小地域福祉活動事例集

Vol.7



社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

平成 25 年 3 月発行

小地域福祉活動とは、自治会や小学校区など生活の場である身近な地域を単位として、誰もが安心して、生きがいをもって生活できる地域づくりのために、地域の福祉課題の解決をめざして進める住民主体の福祉活動です。また、人々の生活スタイルや価値観の変化にともなって、地域の課題が多様化・複雑化しているなかで、住民だけでなく、社会福祉協議会等の専門機関と協力しながら進めていくことがより一層求められています。

小地域福祉活動には、住民の福祉学習・啓発活動、ふれあい・交流活動、見守り・助け合い活動、災害に強いまちづくりのための活動などがあります。滋賀県では、特にふれあい・交流活動の一つとしての「ふれあい・いきいきサロン」の取り組みが顕著で、高齢者サロンをはじめとして、子育てサロン、障害者サロン、世代を越えて誰でも参加できるサロンなど、県内約1,600の地域で特色ある活動が展開されています。

この事例集では、滋賀県内で取り組まれているサロンや助け合い活動、自主防災活動など、6つの事例について、それぞれの地域の特色や課題に応じて、自分たちでできることを考えながら活動されてきた経過や現状とともに、取り組むなかでの気づきや地域への思いを紹介しています。

これらの事例を通して、これから自分の住むまちで福祉活動を推進されようとしている、あるいは既に活動をされている民生委員児童委員、福祉推進員、福祉委員、自治会役員、ボランティアの方々、地域ぐるみで活動をすすめていくうえで大切な視点やポイントを感じとっていただき、今後の活動の参考にさせていただければ幸いです。

# 目次

小地域福祉活動の活動内容	2
事例1 大津市平野学区社会福祉協議会	3
～一人ひとりの幸せを願って5つのWAでふくしのまちづくり～	
事例2 栗東市治田学区新屋敷自治会	5
～日頃からの見守り・交流の場づくり、 そして専門職も参加した定期的な「支え合い」会議へ～	
事例3 湖南市石部中央区	7
～ <sup>あざ</sup> 組(旧字)を超えた、新たな地域福祉活動の展開～	
事例4 高島市今津地区ボランティアセンター	9
～地域に暮らす一人ひとりの“よりぬ”をめざして～	
事例5 甲良町尼子福祉委員会	11
～支援が必要な人・グループホーム入居者が参加する 地域ぐるみの災害時避難訓練～	
事例6 多賀町多賀福祉会	13
～気軽に集える“お話サロン”～	



## 1. 住民の福祉学習・啓発活動

地域住民が社会福祉への関心をもち、福祉活動に参加する気持ちを高めるための学習や啓発をする活動です。具体的には、空き缶拾いや公園の清掃などの「美化活動」、講演や地域の福祉課題について話し合うことにより、地域住民の社会福祉への理解を深める「福祉講座(体験講座)・ボランティア講座の開催」、福祉委員会の活動の様子や福祉講座の内容などを伝えることにより、社会福祉への理解をすすめるための定期的な「広報誌の発行」などがあります。

## 2. 福祉問題発見活動

地域の福祉問題を発見、把握する活動です。問題について住民がともに考え、課題を共有し、協働するために大切な取り組みです。具体的には、地域住民が地域で感じていることや起こっている問題について話し合う場である「小地域懇談会」、近隣の助け合い活動や日常の見守り、緊急時の素早い対応のために、自分たちの地域に民生委員児童委員や一人暮らしの高齢者など、どのような方がいるのかを地図に落とすことによって整理する「福祉マップ(地図)づくり」、地域住民の社会福祉に対する意識や福祉課題を把握するための「意識調査・実態調査」などがあります。

## 3. ふれあい・交流活動

地域住民同士がふれあい、交流する活動を通して、つながりや地域での居場所をつくるための活動です。地域の福祉問題を発見・把握し、新たな活動へ展開したり、見守り活動の役割も果たしたりする大切な取り組みです。具体的には、誰でも気軽に参加でき、地域住民のふれあいやつながりづくりの場である「ふれあい・いきいきサロン」、子どもや高齢者、障害者との交流やつながりづくりを進める「ふれあい交流」、  
“孤食”をしている方が一緒に食事をすることによって仲間づくりにつなげる「ふれあい食事会(会食会)」、  
「つどい」、「子育てサークル」などがあります。

## 4. 見守り・助け合い活動

地域住民の“お互いさま”の活動です。「ちょっと助けて」と気軽に言える関係づくりを進めることによって、支援を必要とされている方の地域からの「孤立」も防ぐことができます。具体的には、ボランティアによるお弁当の配食活動や郵便配達員、新聞配達員による「安否確認」、高齢者の一人暮らしのゴミ出しを近隣住民で手助けするといった「助け合い活動」などがあります。

小地域福祉活動の内容	活 動 例
1.住民の福祉学習・啓発活動	○美化活動 ○福祉(体験)講座 ○ボランティア講座 ○広報誌の発行
2.福祉問題発見活動	○小地域懇談会 ○福祉マップ(地図)づくり ○意識調査、実態調査
3.ふれあい交流活動	○ふれあいいきいきサロン ○ふれあい交流 ○ふれあい食事会 ○つどい ○子育てサークル
4.見守り・助け合い活動	○安否確認 ○助け合い活動

※それぞれの活動を組み合わせて一緒にすることも有効です。  
(例えば、「ふれあい・いきいきサロン」で「ふれあい食事会」をするなど)

# 大津市平野学区社会福祉協議会

～一人ひとりの幸せを願って 5つのWAでふくしのまちづくり～

## 地域の概要

平野学区は、古くから湖上交通が盛んであり、現在でも当時の繁栄ぶりを伝える文化財や町並み、町屋が多く残っています。また、様々な催しや、公共施設、大型のショッピングモールも多く存在するにぎわいのある地域です。

地形の特徴は、JR琵琶湖線付近を境として琵琶湖側には低地が広がり、山手側には丘陵地、南西部から名神高速道路付近までは山地が分布しているととても広い地区で、湖岸地域・中部地域・山手地域それぞれ特徴があり、福祉課題も異なります。

現在、57自治会、人口18,134人、世帯数7,398世帯、高齢化率約20%(平成25年1月末現在)となっています。

## 住民主体“一人ひとりの幸せを” 「ふくしのまちづくり計画」

平野学区社会福祉協議会（以下、学区社協）は、大津市社会福祉協議会「福祉まちづくり計画」のモデル学区に指定され、平成25年度から5ヵ年計画の実施を予定しています。

「住民、当事者の側からの福祉のまちづくり」「一人ひとりの幸せ」を目指して、地域住民の方々からの意見を広く反映できるように学区・自治連合会協力のもと「地域福祉の課題を考えるアンケート調査」を実施し、その結果をもとに住民が集まってタウンミーティングを行いました。

### ▼住民参加の タウンミーティング



▲沢山の意見やアイデアがでました



▲アンケートにより、各地域の現状や福祉課題、ニーズを知ることができました

「ふくしのまちづくり計画」では、平野住民プロジェクト「5つのWA」を基盤とし、住民自身がふくしのまちづくりについて考え、参加できるように「あなたも一緒にぼちぼちと」をテーマにした計画となっています。

## 平野住民プロジェクト“5つのWA”

- 輪 交流・ふれあいの輪をつくりだそう
- 環 もっと安心してらせる輪をつくりだそう
- 羽 地域で活動の輪をひろげよう
- 把 困りごとを考える輪をつくらう
- 和 このまちの夢と未来を語り合う輪を

## 地域とのつながり「すこやかコール」

すこやかコールは、①高齢者世帯②ひとりぐらし世帯③学区社協の会長が特に必要と認めた世帯を対象に各自治会ごとに学区社協会長が委嘱した福祉委員が毎月一回以上電話または訪問をする活動です。

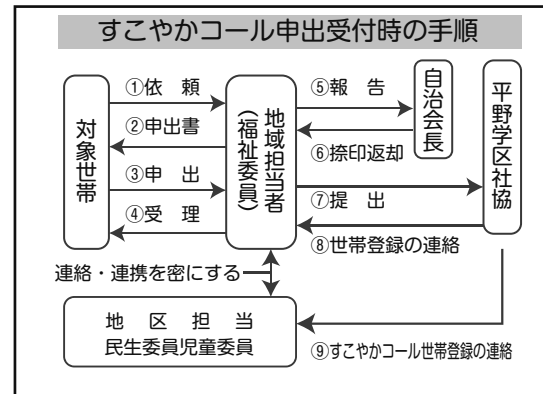


▲実際の活動の様子。話をすることで地域とのつながりを感じることができます。

すこやかコールでは、一人ひとりと向き合い、話をする中で困り事の相談にのったり、その世帯が抱える福祉課題やニーズを把握することももちろんですが、話し相手がいるということが何より大切に喜ばれています。



▲実際の活動の様子。  
地域の福祉委員さんの訪問が楽しみに。



## 「老人のふれあい給食(老人給食)」



▲実際のまごころ弁当



学区社協では、以前より地域のお年寄りの方々へ「まごころ弁当」の配食サービスを行っていましたが、子どもとお年寄りのふれあいを目的として、以前まで給食従事者（地域の女性団体）の方々を作っていたお弁当につける帯を地域の小学生に塗り絵をしていただく活動を始めました。

小学生が考える帯は一人ひとり個性溢れる色遣いや絵柄で、帯に書くメッセージは受け取った方にとっても喜ばれています。



▲子どもたちが描いたお弁当の帯。  
メッセージもとても楽しみにされています。

現在は塗り絵式になっていますが、今後デザインも子どもたちに考えてもらい、平成25年度からは毎月この帯がついたお弁当を地域のお年寄りへ民生委員児童委員が届けます。

## 今後に向けて

「地域福祉の課題を考えるアンケート調査」では、自治会役員のみ手が届かないこと、世代間交流や住民相互のまとまりの乏しさに危機感を持っているという意見が多くみられました。また、まちの「少子高齢化」を反映して、基本的な生活インフラの不備・不足を心配する声が多く寄せられ、元気なころには気にならなかった道の段差や坂道、公共交通の便などが課題として挙げられています。

平野学区は、湖岸・中部・山手と地域によって生活環境が大きく異なることから、湖岸地域では地域の“きずな”の問題、中部地域では“高齢化”による担い手の問題、山手地域では“交通・医療の便”の問題とそれぞれ抱える課題やニーズが異なる部分があるため、現状の生活環境を把握し、ふくしのまちづくりを進めていく必要があります。

民生委員児童委員・福祉委員・自治会長がより連携を強化し、情報共有を行い、住民が自らふくしのまちづくりを考え行動するしくみづくりをしていきたいと思ひます。

# 栗東市 治田学区 新屋敷自治会

～日頃からの見守り・交流の場づくり、  
そして専門職も参加した定期的な「支え合い」会議へ～

## 地域の概要

新屋敷自治会は世帯数が272世帯、人口は666人(平成24年8月現在)。そのうち、70歳以上の高齢者が115人と、最近では周りの地域と同じように、高齢化が進みつつある自治会です。

自治会単独での交流等の取り組みは季節行事が中心で、子ども会主催による春祭りは樽みこし2基が自治会内を巡り、夏には夏祭りや地蔵縁日、秋には運動会が児童公園で、冬には左義長(まつり)がおこなわれています。

## LGG[ライフ・ガードグループ]

新屋敷自治会では、世帯の代表者名が毎年の総会資料に掲載されていますが、家族構成が、特に集合住宅では把握ができていなかったこともあり、平成23年7月に緊急時に備えた「家族確認カード」を作成しました。そして全戸配布し、回答の協力を求めたところ、7割の住民の方からの記入が得られました。これは、何か起こった際の身元の確認や連絡にと考えられたものです。

その後、民生委員児童委員2名と主任児童委員1名、そして自治会長とで、自治会で高齢者の支援に取り組めないかを考えていくために、高齢者の現状把握として名簿と住宅地図を広げ、気になる、あるいは今後支援が必要と思われる世帯をピックアップしたところ、障がいのある方や65歳以上のひとり暮らしの方、75歳以上の夫婦暮らしの方を中心に約40世帯があがり、正確に調査をしていけばもっとあると実感しました。

この時は、具体的にどのような取り組みをするべきか暗中模索で、各人で考えて案を持ち寄ろうとしていた矢先、その年の暮れに、1人暮らしの高齢者宅の電灯が数日間ついたままになっていたため、近隣の方が気になってたずねたところ、自宅へ入浴中

に亡くなっているのが発見されたということがありました。

そこで再び民生委員児童委員・主任児童委員・自治会長が集まり、見守りや具体的な支援をおこなっていくための体制、そして活動内容について話し合いました。その中で結成されたのが『新屋敷LGG(ライフ・ガード・グループ)』です。

## 「地域の見守り活動」のスタート!



▲LGGの定期会議の様子

新屋敷自治会には、25～30世帯で構成される組が9組あり、各組より1名、「温厚で面倒見がよく、口の堅い信頼ある方」がLGGのメンバーとして選ばれ、それぞれの組での見守り・声かけ等の役割を担っています。

各組からの協力者と、民生委員児童委員・主任児童委員・自治会役員の計15名とで、高齢者等への切れ目のない継続的・長期的な支援を行うのがLGGです。

《LGGメンバー》 平成25年1月現在	
【代表者】自治会長	
【顧問】副自治会長2名および会計1名	(計3名)
【各組からの協力者】(計8名)	
【民生委員児童委員】(計2名)	
【主任児童委員】(1名)	《計15名》

自治会の取り組みとして、平成24年度の事業計画に「新屋敷LGG」の活動が明記されるとともに、活動費用の予算も計上されました。平成24年5月には、LGG結成にともなう説明会をおこない、その後も定期的にメンバーが集まり、情報交換や今後の支援について話し合いをしています。

また、その集まりには市地域包括支援センターや市社会福祉協議会にも参加をお願いし、活動内容への助言等も求めています。

メンバーの取り決めとして、決して無理はせず、日常生活の中においてそれぞれの組の中で気を配る、高齢者だけでなく広く目を配る、普段と違って気になることがあれば、定期的なLGGの集まりで、各組の状況について情報交換をおこなっています。そして、緊急を要するものと思われるものは、民生委員児童委員へすぐに連絡するという体制をとっています。

## 新屋敷いきいきチャレンジ

LGGとともに、新屋敷で大切な高齢者への支援の取り組み、地域活動となっているのが『新屋敷いきいきチャレンジ』です。「今よりちょっと元気になりましょう!」を合言葉に、週1回「いきいき百歳体操」に取り組み始めて、はや1年半が経ちました。自治会の防災研修センターを会場として、毎回20数名の方々がいっぱいとなり、「ここに来るのが楽しみ」と和気あいあいとした時間が流れています。



▲いきいき百歳体操の様子

常に新鮮な気持ちで参加していただくため、百歳体操に加えて、地域にお住まいの理学療法士など、様々な方をお願いをし、「ちょっとためになる話」をしてもらう他、「お誕生会」・「歌」・「笑いヨガ」なども取り入れられています。

いきいきチャレンジは、民生委員児童委員や地域の皆さんの手によって運営され、「交流の輪」がどんどん広がっています。

## 何よりも大切なこと…

いきいきチャレンジの活動が地域での新たな居場所となって、つながりや交流が広がり、LGGの活動によって外に出にくい、出ることが難しい方への見守り支援を担うという、2つの活動による相乗効果によって、地域の見守り支援が広がっています。



▲いきいきチャレンジの様子

LGGの活動はまだ始まったばかりですが、定期的な会議の中で、「認知症」や「介護保険」の学習会も併せておこなわれています。専門機関等を講師として、認知症や制度等について正しい知識を得て、認知症の方とその家族のためにできることについて学び、理解を深めています。それは、認知症の方を地域で見守っていくために大切なことであり、今後の活動へつなげていくためです。

それとともに、もっと大切にしていきたいと感じていることは、地域でのつながり、地域での活動、行事を通じた住民のつながり、日頃の何気ない関係づくりです。そんなつながりと関係性がより満ちた地域づくりに向けて、1歩1歩、今後とも取り組まれていきます。



## 湖南省石部中央区

～組(旧字)<sup>あざ</sup>を超えた、新たな地域福祉活動の展開～

### 地域の概要

湖南省石部中央区は、旧石部町の中心地にあり、江戸時代は宿場町として栄え、旧東海道沿いはかつての情緒ある町並みが残っている地域です。

世帯数は828世帯、人口2,053人(平成23年10月1日現在)で、新興住宅地は少なく、いわゆる在所の方が多くのも特徴で、3世代同居世帯も多くあり、地域住民のつながりの希薄が言われているなか、そういったつながりがまだまだ豊かに残っています。

一方で、子どもの数は年々減少してきており、子どもが大きくなると地域を離れてしまうといった状況もあり、今後まちを支えていく若者の地域定着の問題に対する不安の声もあります。

### 新たなつながり、ふれあいづくり

旧石部町には26の字があり、字ごとのまとまりや住民同士のつながりは強かったのですが、平成16年10月の旧甲西町との合併を機に、旧の7つの字で構成された新たな行政区である石部中央区ができてからは、それぞれの字の名前も1～7組と変更され、行政からの情報や補助金も石部中央区に下りてくるようになりました。

そうした状況のなか、合併前には交流があまりなかった住民同士が顔見知りになる機会を設けて交流を拡げること、さらに子どもたちに生まれ育った地域を好きになってもらおうと、平成18年から「さくらまつり」の取り組みが始まりました。

「さくらまつり」は石部小学校一帯と十禅寺公園で開催されており、各組の三役(会長、副会長、会計など)、福祉協力員、健康づくり推進員、地域活動推

進員、子ども会など各組から約10名の役員、合計約70名が集まって実行委員会、運営委員会が組織され、毎年4月上旬の開催に向け数回、会議の場が持たれます。



▲子どもたちも年1回のさくらまつりを心待ちにしています。



▲つくたてのお餅はみんな大好物。食を通して笑顔が広がります。

老いも若きも熱くなるグラウンドゴルフやビンゴゲーム、また子どもたちが喜ぶスーパーボールすくいや綿菓子、他にも餅つきや焼きそば、フランクフルト、豚汁など、誰もが楽しめ、盛んに交流が深められるよう議論を重ね、毎年たくさんの方で賑わっています。



▲共に汗を流すことでまちで出会っても自然と挨拶を交わすようになりました。

### 福祉協力員の訪問を心待ちに

独居高齢者訪問は、各組の福祉協力員が毎年12月に、それぞれの組の75歳以上の一人暮らし高齢者のお宅に鉢花を持って訪問する取り組みで、こちらから平成18年から始まりました。

福祉協力員はそれぞれの組でサロンを実施されているので、どこに一人暮らし高齢者が住まわれているのかは概ね把握されており、訪問に行くと「待ってたわぁ」と喜ばれる方や、75歳に達していない方から「私はまだかぁ？」と聞かれる方もおられるほど、この訪問を心待ちにしている方が大勢おられるようです。

### 地域住民との太いパイプを

さくらまつりが始まったことにより、合併前の字といった狭い範囲のみでのつながりから、組外の方同士でもあいさつし合う関係がうまれるなど交流が広がっており、組から区といった行政区エリアの変化に対する住民の意識が変わりつつあります。

また、独居高齢者訪問については、小さなエリア(組)単位ならではの「良さ」を生かしつつ、開始から6年間継続して取り組んでおられることから、福祉協力員と高齢者をはじめとした地域住民との太いパイプが出来上がってきています。

### 自治会に入っておられない方をどうするか

課題もあります。まず、中学生以上の青年層のさくらまつりへの参加が少ないこと。そして、自治会に入っていないアパートに住まわれている方もおられるので、アパート住まいの独居高齢者の方は把握できていないことがあります。このことについて福祉協力員の長谷川あさ子さんは次のように話します。

「そういった方たちは民生委員が把握されていますが、守秘義務もあり、また、組ごとでの取り組みということもあるので、私たちは把握できていません。区長や民生委員、地域住民、そして福祉協力員のお互いが持っている情報を共有できるようになると、サロンへのお誘いなどを通して地域住民とのつながりができていくと思います。」



◀「私が社協職員時代に必要と思い、地域にその必要性を伝え、住民にお願いした福祉協力員制度が現在も続き、活躍されていることを、とてもうれしく思います」と長谷川さん。

### 地域福祉活動は私の生きがい

かつて旧石部町社協職員だった長谷川さん。「地域福祉活動は、私の生きがいであり、楽しさ、やりがいがあります。地域住民との太いパイプは小さなエリアだからこそできること。社協職員だったということもありますが、実際にまちに住む多くの方に私の顔を知っていただいています。まちの人が私のことを必要とっていただいている限り、これからも活動を続けていきたいです」と明るくお話ししていただきました。

区や組といったエリアの違いを活かし、実情に沿った無理のない、楽しい取り組みは、これからも続いていきます。

# 高島市今津地区ボランティアセンター

～地域に暮らす一人ひとりの“より処”をめざして～

## 地域の概要

高島市今津地区は、人口 12,516 人、4,951 世帯（平成 25 年 2 月現在）、区・自治会数は市内で最も多い 50 区から成り、美しい浜が広がる琵琶湖岸から福井県と県境を接する雪深い山間地域までと広く、環境も暮らし方も集落によって様々です。

いずれの集落においても全国的な傾向でもある少子高齢化が課題となっていますが、新興住宅地における福祉課題と旧来の集落における福祉課題との違いなど、その実態は 50 区それぞれに異なります。

## 活動のもととなる、身近な地域での「住民福祉活動計画」

高島市では、平成 22 年度から 5 年間の計画となる第 1 次の「住民福祉活動計画」(以下、活動計画)と「高島市地域福祉推進計画」を、市社協が中心となり策定しました。活動計画の策定にあたっては、6 つの地域（合併前の旧町村の範囲）それぞれで、身近な生活課題、福祉課題を話し合い、住民が主体的に取り組める計画とするため、ボランティア、NPO、当事者団体、区・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員会、まちづくり関係者、福祉事業所などで構成する“住民福祉ネットワーク会議”を設置しました。



▲市全体の計画「高島市地域福祉推進計画」(左)と、今津地区の概要版(右)

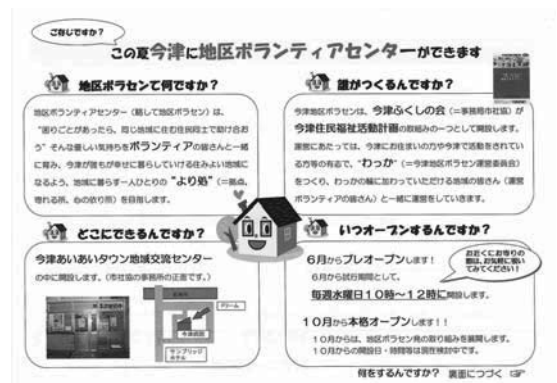
## 地域がつながり、おおきな「わか」に

計画の策定後、その推進組織として、6 地域に住民福祉協議会が設置されました。今津地区ではその名称を「今津ふくしの会」として、住み慣れた地域で安心して暮らしていくために必要なものは何かと話し合っていました。

そのなかで、「どこに相談したら良いかわからない」「ちょっと聞いてほしいんだけど」といった暮らしの中のちょっとした悩みを気軽に相談できる身近な相談窓口、地域の人が気軽に集まれる拠点として地区ボランティアセンター(以下、地区ボラセン)の設置を検討してきました。

その結果、平成 24 年 6 月に、まずは地区ボラセンを住民主体で運営するための運営委員会「わかかの会」が誕生しました。

わかかの会は、今津ふくしの会からのメンバーと、新たに呼びかけてわかかの「わ」に加わった地域の皆さん(運営ボランティア)、そして社協などの専門職を入れた合計 12 名でスタートしました。



## 今津地区ボラセンがスタート!

困りごとを同じ地域に住む住民同士で助け合おう! そんな優しい気持ちを育み、誰もが幸せに安心して暮らしていける住みよい地域になるよう、

地域に暮らす一人ひとりの“より処”(=拠点、寄れる所、心の依り所)となることをめざして、わかかの会が発足すると同時に、今津地区ボラセンが今津あいあいタウン地域交流センター内にプレオープン、同 10 月に本格オープンしました。毎日開けることも考えましたが、まずは運営するボランティアスタッフが無理なく続けられるように、現在は毎週水曜日の 10 時から 12 時のあいだの開設としています。



▲11 月には開所式&ボランティアのつどいを開催しました。



## 地区ボラセンカフェ「より処」オープン!

地区ボラセンがプレオープンした当初は、地域交流センター内の事務所に机と電話を置き、来所者や電話相談を待っているというスタイルでしたが、なかなか来所者や相談はありませんでした。そんな時、わかかの会メンバーが参加した市社協主催のボランティアコーディネーター養成講座で、今津地区と時を同じくして取り組みをスタートさせていた安曇川地区ボラセンの取り組みを知る機会がありました。安曇川地区ボラセンはカフェ形式で運営されていたことから、それを参考に、足を運びやすく、人々が寄りやすいように、と交流センター内の屋内オープンスペースに、地区ボラセンカフェ「より処」を開設しました。コーヒー 1 杯 10 円。気軽におしゃべりできるスペースができたことをきっかけに来所者は増えはじめました。

## 地域みんなが集まる場所に

カフェには地域の住民だけでなく、近隣のケアハウスの利用者さん、障がいのある方など普段外に出る機会がそう多くない人たちも来られます。また、口コミから地域のキーパーソンとなる方々も来られるようになっていきます。

地域の身近な相談窓口として、暮らしづらさなどの困りごとを抱えている本人が直接地区ボラセンに来て相談をしていくことはハードルが高いものです。そこで、そういったニーズを把握している民生委員児童委員や福祉推進委員、ボランティアの方々など地域のキーパーソンが気軽に寄り、地域の困りごとを届けてくれる場にしていこうと地区ボラセンの狙いのひとつです。



▲寒い日はストーブ囲ってほっこり♪

## これからのこと

今津地区ボラセンは、誰でも気軽に福祉に参加できる活動の場にもしていきたいと考えています。単にボランティアの需給調整に留まらず、行けば福祉的な意味のある活動に気軽に参加できる機会づくりも進めていきたいと考えています。そのため、昨年 9 月には、共同募金運動の資機材づくりをカフェでボランティアと一緒にしました。

こうした取り組みが人と活動をつなげ、活動者の裾野を広げていくことにつながると考えています。

そのためにも、いつでもふらっと立ち寄ってもらえるよう開催の頻度もいずれ増やしていきたいとの展望を持っています。

# 甲良町尼子福祉委員会

～支援が必要な人・グループホーム入居者が  
参加する地域ぐるみの災害時避難訓練～

## 地域の概要

甲良町尼子地区は、町の西部地域に位置し、豊かな自然に恵まれ、水田や畑が広がる農村地帯です。

また、戦国大名であった尼子氏の発祥の地として、あるいは国の重要文化財に指定されている甲良神社殿を有するなど豊かな歴史文化が蓄積されています。

尼子地区は、255世帯、人口906人、高齢化率約29%で、少子高齢化が年々進んできています。

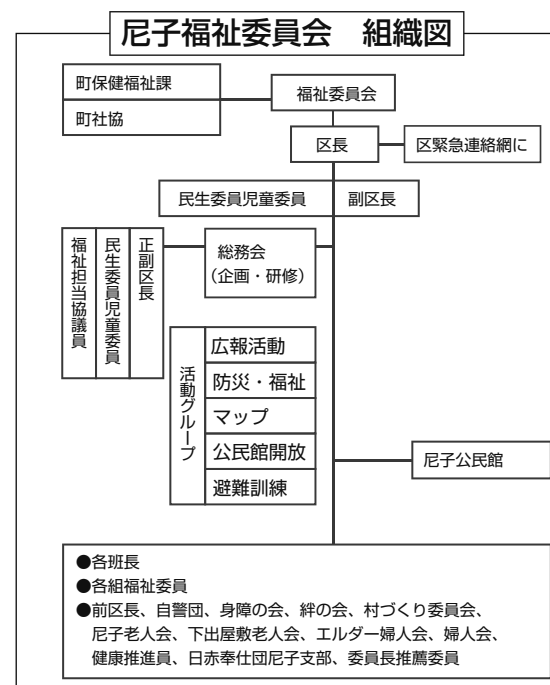
(平成24年4月現在)

## 「尼子福祉委員会」

～お互いが支えあう地域づくりをめざして～

平成9年に設立した「尼子福祉委員会」(以下、福祉委員会)は、その後活動を発展させ、平成17年より設置要綱が定められ、組織体制を見直し、現在に至っています。

設置要綱には、「お互いが支えあう地域づくり」を委員会の目的として明記しています。



## 連携による4グループの活動

福祉委員会は、①広報活動、②防災・福祉マップ、③公民館開放、④避難訓練の4つのグループにわかれ、それぞれが連携をとりながら活動を進めています。

①「広報活動」の中心は、年4回、全戸配布の広報誌の発行です。「丁寧な編集会議をすること、行事に参加した区民の生の声を掲載し参加型の誌面づくりを心がけている。」とリーダーの西堀さんは話します。



▲広報誌「尼子福祉委員会だより」

②「防災・福祉マップ」と④「避難訓練」はとくに密接した活動で、災害にも強いまちづくりのために、丁寧に話し合いを行い、情報を共有し、連携により進めています。

③「公民館開放」は、誰でも参加できるサロン「よっといで」の開催等の活動です。

「子どもが少ない区ではあるけれども、子どもを地域で育て、子どもの頃から多様な世代と交わって成長してほしい。」との願いから、「子どもサロン」もはじめました。



▲「子どもサロン」のカレーづくり教室で、人参の皮むきを教わりました。

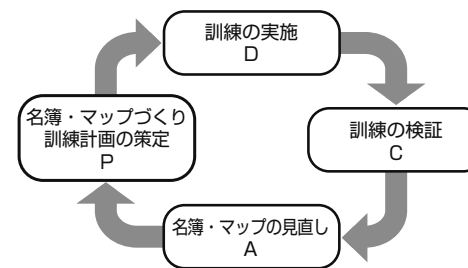
## 災害時の被害を最小限に ～支援を必要とする方を中心に 据えた減災の取り組み～

東日本大震災等の大災害が近年頻発し、滋賀県内でも琵琶湖西岸断層地震の発生が危惧されていることもあり、尼子地区では、災害時の被害を最小限にする活動＝『減災活動』に力を入れ、とりわけ支援を要する人が安心・安全に避難できるよう、備えを進めているところです。

## 尼子地区のみんなが参加する 区民避難訓練

平成18年からはじめた避難訓練。以降毎年開催となりました。訓練が終われば参加者の意見をもとに検証を行い、対策を強化し、また訓練を行うという『PDCA サイクル』が確立してきました。

### 尼子地区の減災サイクル



地区には認知症高齢者、障害者、乳幼児、妊婦等災害時に支援を必要とする方々＝「災害時要援護者」もおられます。

区で登録管理している名簿により、あらかじめ決めている支援者が要援護者の安否を確認し、作成している「防災マップ」をもとに安全に避難場所まで避難誘導を行います。

また、区内には認知症高齢者が入居しているグループホーム「らくらく」があります。ある時、



▲「らくらく」入居者の避難誘導の様子。夜間の職員1人体制を想定しています。

会議の場で「らくらくの入居者は災害時に避難できるんか？同じ区の仲間として助けに行かなあかん！」と意見が出されました。そして、「らくらく」と話し合った結果、認知症サポーターと近隣の支援者などが「らくらく」の入居者と一緒に避難する仕組みができ、訓練もその仕組みにより実施しました。

地域からの積極的な働きかけと、地域を大事にする施設の考え方が、地域の中に施設が溶け込むことになり、日頃からの入居者の安全・安心にもつながっています。

「日頃から、地域の人からいただいた野菜を使って料理をつくったり、お世話になっている地域の人を招いて鍋パーティーをしたり、区とグループホームがお互いの行事に参加し、自然な形で入居者と地域が交流をしています。日頃から、見守られ、職員は福祉委員会に参加しています。その延長にあるのが避難訓練です。」と所長の山口さんは話します。

## 楽しみながらの減災活動 ～防災標語を募集～

防災意識高揚のため、区民から標語を募集しています。また、入選標語を選び避難訓練時に展示する他、優秀作品は看板化し、平常時からの啓発に役立てています。

毎回多くの作品が寄せられ、いつ起こるかかわからない災害の対策を継続するために、楽しみながら備える工夫を心がけています。

### 平成22年度「防災標語」入選作品

- 念のため！！備えた準備が 家族を守る
- ふだんから 声かけあって 減災へ
- 防災訓練 積み重ねが 命を救う
- 高めよう 防災意識 家庭から
- 頭より 身体で覚える 防災訓練

## 今後に向けて ～想定外にも臨機応変に行動できるように～

区の要援護者支援の取り組みと町行政の要援護者登録制度との整合性が取れていないことが課題であり、今後、町行政との協議が必要です。

また、災害は規模や種類が様々であり、事前の想定どおりにいかないことがほとんどです。想定外の災害に臨機応変に柔軟に対応していく力を区全体、そして区民一人ひとりがつけていくために、工夫した備えと訓練を繰り返し継続していく必要があると認識しています。



## 多賀町多賀福祉会

～気軽に集える“お話サロン”～

### 地域の概要

多賀町大字多賀には、古くから「お多賀さん」として親しまれている多賀大社があり、年中をとおして多くの参拝者がいます。多賀区は町の中では中心部に位置しており、18の小字で構成されている比較的大きい地区です。

多賀区は、人口1,864人、618世帯で、町の中では高齢化率は比較的低いものの、ひとり暮らし高齢者が増えてきています。

### 多賀福祉会のサロンの取り組み

多賀福祉会は、18人で構成されており、メンバーが協力して月2回のサロンを開催しています。1つは「多賀サロン」で、地区の75歳以上の高齢者が誰でも参加できます。多賀サロンでは、参加費100円を徴収し、バス旅行やお花見、ゲーム大会、学習会など、季節に合わせてさまざまな楽しい企画をしています。

また、町役場や駐在所、図書館長の話や聞く機会をつくるなど、地域のいろいろな人との交流の場にもなっています。町保健福祉課の職員から介護予防の話や地域の歴史の話や、中でも大きなにぎわいを見せるのが、地区の子どもたちとの交流です。普段顔を合わせることも少なくなっていますが、ささゆり保育園の園児の元気な歌声発表会や、肩たたきを



▲歌に合わせて肩たたき。園児とのおしゃべりは、毎回大盛り上がりです。

してもらいながら話をするなど、お互いがパワーをもらっています。

多賀サロンでは、昼食もメンバーの手作りで、福祉会が用意した手巻き寿司やかやくご飯、ちらし寿司をみんなで楽しく食べます。

そして、もう1つが「お話サロン」です。「月1回だと、予定が合わない人は2カ月空いてしまう」、「喋るだけでも、みんなと会う機会がほしい」という声があり、4年前から始めました。お話サロンは、月1回、自由に参加し、お茶を飲みながらお喋りを楽しむ場です。そのため、事前の出欠はとりませんが、サロン開始の10時前になると、次々と人が集まってきます。2月に開催されたお話サロンでは、恒例の「ご利益体操」をしたり、スタッフ手作りのクイズ等を楽しみました。参加者は「運動したり、頭をつかたり、みんなと楽しめる機会が増えて嬉しい」と話します。



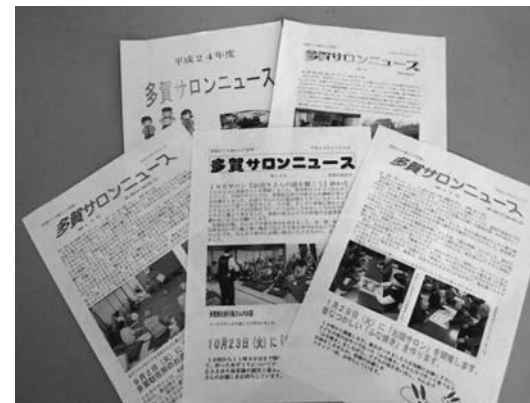
▲みんなで「ご利益体操」。身体も心もほぐれます。

また、毎回サロンのはじめには「今朝の多賀」のコーナーがあります。このコーナーでは、福祉会代表の火口さんが「普段、あまり外に出ない人も増えていきます。少しでも町内の変化を知ってもらい、好奇心を持って外に出てもらえれば嬉しい」と、多賀町の風景を季節とともに伝えておられます。参加者同士で「今はこんな景色になってるんだ」と会話が弾み、大変好評の時間です。

### ひとりでも多くの人に楽しんでもらいたい

多賀福祉会では、毎回「サロンニュース」を手作りし、発行しています。このニュースは、18の小字で回覧されているほか、ニュースを持って民生委員児童委員が声をかけたりしています。色鮮やかな写真を使って楽しい様子を届けながら、次回の案内をしています。

また、お話サロンの前日には、「明日はサロンですよー」と地区のみなさんにFAXを送られており、閉じこもりがちの人に少しでも気軽に参加してもらえ工夫をしています。



▲写真には、みなさんの素敵な笑顔がいっぱい。思わず参加したくなります。

### 多賀福祉会のモットー

多賀福祉会では、「肩ひじはらずに、あるもので、できることを」をモットーにしています。お話サロンでは、お菓子もみんなが少しずつ持ち寄り、スタッフがそれぞれの特技を活かした“ちょっとしたお楽しみ”があります。時には、子どものおやつである「ふな焼き」を作って食べたり、参加者の中の特技を持った方が先生になって「布



▲男性も慣れた手つきで懐かしい「ふな焼き」づくり。

草履」を作ったりするなど、みんなでわいわいと楽しむこともあります。

サロンのスタッフとして参加されている福祉推進員も、「お話サロンは、参加者もスタッフも気軽に参加できますよ」と話され、運営している側も楽しんでおられるところが魅力です。

### 今後に向けての思い

多賀町では、高齢化がすすみ、「買い物に行きづらくなった」「認知症高齢者をどう地域で見守っていくか」など、住民にとって身近な暮らしの課題としてさまざまな課題が出てきています。月2回集まる場がある多賀区では、サロンに来ていない人がいると、5人の民生委員児童委員を中心に情報を共有し、普段の見守り活動につなげています。参加者同士が顔見知りの関係であるため、それとなく参加者との会話のなかから、支援の必要な人に気づくこともあります。

福祉会代表の火口さんは、「今はサロンの拠点が1つしかなく、元気な人でないと来られないという課題もある。もっと身近なところにみんなの居場所をつくりたい」と、もっと小さいエリアでそうしたサロンを開催できないか、検討されています。多賀町の山間地域では、サロンで送迎をしておられるところもありますが、今後はこうしたことにどう対応していくかも1つの課題です。



また、今は福祉会と ▲福祉会代表の火口悠治さんして会館を開放しているのは月2回ですが、老人クラブの活動とうまく調整して会館を開放する日を増やし、いつでも気軽に立ち寄れる場を増やしていくことも検討中です。

こうして地道に取り組みを続けられていく中で、みんなのアイデアや気づきが生まれ、住民らしい柔軟な支え合いに活かされていくことが期待されます。



## 各事例の詳細については、それぞれの市町村社協へお問い合わせください。

### 県内市町社会福祉協議会一覧（平成25年3月末現在）

社 協 名	〒	住 所	電話番号
大津市社会福祉協議会	520-8530	大津市浜大津 4 丁目 1 - 1 明日都浜大津内	077-525-9316
彦根市社会福祉協議会	522-0041	彦根市平田町 670 福祉保健センター別館	0749-22-2821
長浜市社会福祉協議会 (地域福祉部)	526-0037	長浜市高田町 12 - 34 社会福祉センター内	0749-62-1804
近江八幡市社会福祉協議会	523-0082	近江八幡市土田町 1313 市総合福祉センターひまわり館内	0748-32-1781
草津市社会福祉協議会	525-0041	草津市青地町 1086 番地 (旧湖南地域職業訓練センター)	077-562-0084
守山市社会福祉協議会	524-0013	守山市下之郷町 592-1 福祉保健センター内	077-583-2923
栗東市社会福祉協議会	520-3015	栗東市安養寺 190 総合福祉保健センター内	077-554-6105
甲賀市社会福祉協議会	528-0005	甲賀市水口町水口 5609 水口社会福祉センター内	0748-65-6370
野洲市社会福祉協議会	520-2413	野洲市吉地 1127 中主ふれあいセンター内	077-589-4683
湖南市社会福祉協議会	520-3234	湖南市中央 1 - 1 社会福祉センター内	0748-72-4102
高島市社会福祉協議会	520-1121	高島市勝野 215 高島市役所高島支所 2F	0740-36-8220
東近江市社会福祉協議会	527-0016	東近江市今崎町 21-1 八日市福祉センター内	0748-20-0555
米原市社会福祉協議会	521-0023	米原市三吉 570 米原地域福祉センターゆめホール内	0749-54-3105
日野町社会福祉協議会	529-1602	日野町河原 1-1 勤労福祉会館内	0748-52-1219
竜王町社会福祉協議会	520-2552	竜王町小口 4-1 福祉ステーション内	0748-58-1475
愛荘町社会福祉協議会	529-1313	愛荘町市 731 福祉センター愛の郷	0749-42-7170
豊郷町社会福祉協議会	529-1161	豊郷町四十九院 1252 豊栄のさと内	0749-35-8060
甲良町社会福祉協議会	522-0244	甲良町在士 357-1 保健福祉センター内2階	0749-38-4667
多賀町社会福祉協議会	522-0341	多賀町多賀 221-1 総合福祉保健センター内	0749-48-8127

滋賀県社会福祉協議会	525-0072	草津市笠山 7-8-138 長寿社会福祉センター内	077-567-3920
------------	----------	---------------------------	--------------